



三邊 義雄 先生

略歴

1978年 金沢大学医学部 卒業
1982年 金沢大学大学院医学研究科 博士課程修了（医学博士）
医療法人七尾松原病院 院長
1985年 富山医科薬科大学精神神経医学教室 助手
1989年 New York州立大学Stony Brook校精神科 リサーチアソシエイト
1993年 国立精神神経センター神経研究所疾病研究第7部 室長
1999年 石川県立高松病院 診療部長
2001年 浜松医科大学附属病院精神科神経科 講師
2006年 金沢大学大学院精神行動科学教授，金沢大学病院神経科精神科診療科長
金沢大学子どものこころの発達研究センター長
大阪大学連合大学院小児発達学研究所金沢大校教授
革新的イノベーション創出プログラム 金沢大サテライト長
2019年 現職，現在に至る

メンタルデンタルヘルス（精神衛生と歯科衛生） — 歯科学の精神衛生への期待 —

厚生連高岡病院 精神科部長（兼）顧問／金沢大学 名誉教授
三邊 義雄

メンタルヘルスにおける課題は多いが，その罹患率の高さから（全人口の1%以上），世代別に3つの疾患が特に注目される。すなわち，①児童思春期に多い発達障害②成人期に多い気分障害③老年期に多い認知症である。

発達障害には，主として問題になる脳高次機能の違いから，自閉症，ADHD，学習障害，運動障害，精神遅滞など多彩な疾患が含まれる。いずれも生命への直接的な危機はないが，社会生活能力が幼少時より強く阻害され，本人ばかりでなく両親や家族の負担も著しい。早期診断・早期介入は，発達障害のみならず2次的な誘発精神症状の予防，発達障害独自の才能発掘，家族の精神衛生保持などに重要である。

気分障害の中核症状はうつ状態であり，自殺予防の観点からも，予防・早期介入が求められる。朝に強いうつ気分，意欲減退とそれに伴う焦燥感・自責感，集中力低下や思考抑制とそれに伴う仕事能率低下や倦怠感，睡眠障害，食欲低下などの症状が典型的である。さらに多彩な身体症状を伴い，本人も周囲も身体疾患と考え，精神科以外の身体科を初診することが多い。さらに，うつ状態とハイ（躁状態）を繰り返す双極性障害は，より難治化し易い。

認知症は，老化に伴う高次脳機能の低下であり，記憶力などの認知機能のみならず多彩な精神症状が出現する。早期発見による薬剤などの治療が期待されているが，現状では困難な状態が継続している。潜在的な発病は臨床的なそれよりかなり先行するといわれ，メタボ対策など全身的な健康保持の，発病予防への有効性が期待されている。また，発病後の自立生活機能低下による，新たな身体疾患出現の予防も重要課題である。

口腔疾患（口腔機能発達不全症，歯周病，う蝕，口腔機能低下症など）は，生活習慣病やその合併症および虚弱（フレイル）などによる病的老化を促進するリスク要因となり，特に，歯周病に関しては，うつ症状や認知症との関連性が明らかにされてきている。今後は，健康寿命延伸⇒社会貢献⇒幸福寿命延伸といったいわゆる「Productive aging」を達成する上では，フィジカルヘルス（身体的健康）とメンタルヘルス（精神衛生）の両面から歯周病をはじめとしたデンタルヘルス（歯科衛生）を捉え，ライフコースアプローチとして具現化していくことが必要と考える。